英米法A第6回

アメリカ法の形成2

丸山　英二

2. 本国との抗争

(1) 重商主義植民政策――Navigation Acts (1651-) などのSalutary Neglect
(2) Seven Years' War (1765～1763) & Treaty of Paris (1763)――イギリスの北米領土の拡大
(3) Navigation Acts などの厳格な実施とSugar Act (1764), Stamp Act (1765), Declaratory Act (1766), Townshend Acts (1767) などの制定
(4) Tea Act (1773) の制定とBoston Tea Party (1773)
(5) Intolerable Acts (1774) の制定
(6) First Continental Congress (Sept. 5 to Oct. 26, 1774)――Declaration and Resolves of the Continental Congress (Oct. 14, 1774)
(7) American Revolutionary War / American War of Independence (1775–1783)
(8) Declaration of Independence (July 4, 1776)
(9) Articles of Confederation (approved 1777, ratified 1781)
(10) Treaty of Paris (1783)
(11) Constitution of the United States (1787, 1788)

(1) 重商主義植民政策

◆英本国――植民地が経済的な貢献をする限り，植民地の内政には干渉しない姿勢⇒植民地自治の醸成
◆Navigation Acts (1651-)
①植民地貿易――イギリス帝国の船舶――植民地貿易をイギリス帝国の船舶に限定したのは，他国，とくにオランダが英領植民地との海運で利益を収めることを防止しようとする目的であった.
②③植民地貿易は本国に港を経由すること
◆Woolen Act, Hat Act――植民地の製品の本国への輸出禁止。
◆Iron Act――銑鉄加工工場の新設禁止。
◆1763年まで厳格に実施されない――Salutary Neglect

(2) 重商主義的政策の厳格な実施と植民地人の反発

◆Royal Proclamation (1763); Sugar Act, Stamp Act, Currency Act, Quartering Act (1764-65).
◆Stamp Act廃止とDeclaratory Act制定（1766），Townshend Acts制定（,1767）
◆Tea Act (1773) の制定とBoston Tea Party (1773)
◆Intolerable Acts (1774) の制定
1. The Boston Port Act (March 31, 1774)
ボストン港の閉鎖，およびイギリスの税関の撤去。
2. The Massachusetts Government Act (May 20, 1774)
(a)これまで下院で選挙されていた参議会議員を国王の任命に(I).
(b)裁判官任命を総督権限とし，参議会の承認の要件を廃止(III, VI).
(c)Town meeting の開催に総督の許可を必要と規定(VII).
(d)従前住民が選挙で選んでいた陪審員を，総督任命の sheriff の選任に(VIII).
3. Administration of Justice Act (May 20, 1774)
一定の事件の審理を他植民地の裁判所/本国王座裁判所に移す権限を総督に与えた。
◆Declaration and Resolves of the Continental Congress (Oct. 14, 1774)

3. アメリカ独立戦争
American War of Independence (1775–1783)

Declaration of Independence (July 4, 1776)

We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights, that among these are life, liberty and the pursuit of happiness. That to secure these rights, governments are instituted among men, deriving their just powers from the consent of the governed. That whenever any form of government becomes destructive to these ends, it is the right of the people to alter or to abolish it, and to institute new government, laying its foundation on such principles and organizing its powers in such form, as to them shall seem most likely to effect their safety and happiness. Prudence, indeed, will dictate that governments long established should not be changed for light and transient causes; and accordingly all experience hath shown that mankind are more disposed to suffer, while evils are sufferable, than to right themselves by abolishing the forms to which they are accustomed. But when a long train of abuses and usurpations, pursuing invariably the same object evinces a design to reduce them under absolute despotism, it is their right, it is their duty, to throw off such government, and to provide new guards for their future security.

Declaration of Independence (July 4, 1776)

We hold these truths to be self-evident,

われわれは以下の真理は自明であると考える。すなわち,【←自然権，自然法思想を基礎とする】

that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights, that among these are life, liberty and the pursuit of happiness.

すべての者は平等に創られ，創造主によって，生命，自由，幸福追求など，一定の不可譲の権利を与えられていること。【天賦人権説】

That to secure these rights, governments are instituted among men, deriving their just powers from the consent of the governed.

これらの権利を確保するため，人民のあいだに政府が組織され，その正当な権力は被治者の同意に由来すること。【社会契約説】

That whenever any form of government becomes destructive to these ends, it is the right of the people to alter or to abolish it, and to institute new government, laying its foundation on such principles and organizing its powers in such form, as to them shall seem most likely to effect their safety and happiness.

政府がこれらの目的を破壊するものとなった場合，それを改廃し，人民がその安全と幸福をもたらすものと考える原理を基礎とし，そのような形態に権力を組織する新たな政府を組織することは人民の権利であること。【革命権】

アメリカ独立戦争前後の経緯 I

1763年	七年戦争終結；パリ条約(2)；国王の布告(10)	
1764年	砂糖法(4)	
1765年	印紙税法(3)；印紙税法会議の宣言(10)	
1766年	印紙税法廃止；宣言法(3)	
1767年	タウンゼンド法(6)	
1770年	タウンゼンド法廃止（茶に適用される関税を除く）(4)	
1773年	茶法(5)；Boston Tea Party(12)	
1774年	Intolerable Acts；第１回大陸会議(9)；同宣言と決議(10)	
1775年	開戦(4)；第２回大陸会議(5)；GeorgeIII: Proclamation of Rebellion (8)	
1776年	第２回大陸会議に独立の提案(6.7)	
	独立宣言起草委員会の任命(6.10)	連合規約起草委員会任命(6.11)
	独立の決議採択(7.2)；独立宣言採択(7.4)	
1777年		連合規約大陸会議で可決(11.15)
1781年	Yorktownの戦いで植民地軍勝利(10)	連合規約成立(3.1)

4. 13邦の成立とアメリカ連合 (1)邦憲法

◆独立宣言とともに

——それぞれの state において正式な政府組織の形成に着手

——正式な連合の形成に着手

(1) それぞれの state における政府の形成

→ 憲法の制定（政府の構成・人民の権利）[教科書22頁1～7行]

不文憲法が採られなかった理由

——革命後一挙に政府の構成等を規定する必要.

【参考】清教徒革命後の Oliver Cromwell が出した Instrument of Government 1653（イギリス史上最初の成文憲法典の試み. 1660年廃止）

——植民地の建設のさいに出された charter に代るものが必要

(2) 正式な連合の形成に着手

(2)(3)連合規約とアメリカ連合

(2) 連合規約の採択・批准

(3) 連合規約の内容[教科書22頁16行～23頁19行]

(e) 行政機関

連合の委員会 (committees)

Foreign Affairs――Department of Foreign Affairs (Jan 10, 1780-), Secretary for Foreign Affairs (Aug 10, 1781)

Finance Committee――Department of Finance, Superintendent of Finance (Feb 7, 1781-)

Army Committee――Department of Military Affairs, Secretary at War (Feb 7, 1781-)

Marine Committee――Marine Committee, Secretary of Marine (Feb 7, 1781-) など。

(4)連合の危機

◆植民地経済――独立戦争中の活況 ⇒ 独立戦争後の大不況

【イギリスの経済的報復】

独立戦争後イギリスは,

・アメリカ船をイギリス領西インド諸島から締め出した. ←Navigation Acts(植民地貿易はイギリス帝国の船舶で)

・アメリカ製の船舶の輸入を禁止した.

・アメリカ産の商品の輸入を禁じたり, 高率の関税をかけたりした.

それに対してアメリカは,

・工業製品をイギリスから輸入せざるを得なかった.

各邦の状況

◆戦費調達のために発効された多額の公債の返済, 支払いが遅滞の軍人給与の支払のため, 歳入が必要。

◆歳入を得るため, 関税の増徴。外国商品に対する関税だけでなく, 他邦商品に対する関税も多い。

⇒米国内に関税障壁, 一体としての経済発展を阻害。

急進派が邦議会を支配した7邦	保守派が邦議会を支配した6邦
紙幣の増発, 紙幣での弁済受領義務づけ	歳入増加のため増税
弁済期延長や分割・代物弁済を認めたり, 債務者拘禁を廃止する法律の制定	税や金銭債務の硬貨での支払の義務づけ, 抵当権実行, 債務者拘禁実施
→経済的に不安定な状況	→農民が暴動を起こすなどの社会不安

連合の状況

◆租税・関税を賦課徴収する権限, 邦間通商規制権限の欠如。

⇒邦の関税の禁止, 連合の関税による全米的産業保護政策ができない。

⇒関税権限を連合に付与する連合規約改正は, 1782年はRIの, 1783年はNYの反対不成立(連合規約改正には, 全邦の承認必要)。

◆公債返済, 軍人給与支払に必要な資金も, 各邦は割り当て拠出金の1/6しか拠出せず。

◆常備軍に対する警戒心が強く, 財政難もあって連合の軍隊は弱体⇒米領土に残った英兵やインディアンを駆逐・鎮圧できない。ミシシッピ川河口封鎖のスペイン軍も排除できず。

◆シェイズの乱(1786.8, Shays'Rebellion――保守派が邦議会を支配するMAで, 債務の負担と緊縮財政に苦しんだ農民たちは, 紙幣の増発, 減税, 抵当権実行の禁止, 債務者拘禁の廃止などを要求し, 裁判所を襲撃してその機能を麻痺させた)に対して, 連合は無力で, 鎮圧は, 邦がボストンの商人から借りた金で集めた軍隊によってなされた。[Shays:農民出身の軍人, 給与未払いで退役後借金返済に苦しむ]

5. 合衆国憲法の制定 (1)合衆国憲法の制定に向けて

Annapolis会議(1786.9.11-14)

通商問題の討議するためVAの下院議員James Madisonの求めでVA議会が招請した会議，9邦が代表を選出し，5邦の代表が参加。

会議の最終日，NYからの代表で中央集権論者のハミルトン(Hamilton)が起草したリポートが採択，連合会議と各邦に送られた。

リポートは，中央政府改革に関する検討のため，各邦代表が参加する会議を翌1787年5月にPhiladelphiaに招集することを提案。

6邦が同会議に出席する代表を選出。

↓

1787年2月，連合会議はその会議を，「連合規約を改訂することを唯一かつ明示の目的とする会議」として招集。

1787年5月，後にConstitutional Conventionと呼ばれる会議開始(RI不参加)。

5. 合衆国憲法の制定 (1)合衆国憲法の制定に向けて

Constitutional Convention(1787.5.25-9.17)

◆提出された憲法案

Virginia案，Pinckney案，New Jersey案，Hamilton案

◆憲法制定会議での対立点と妥協

・議会で各邦に与えられる票数――議員数の配分

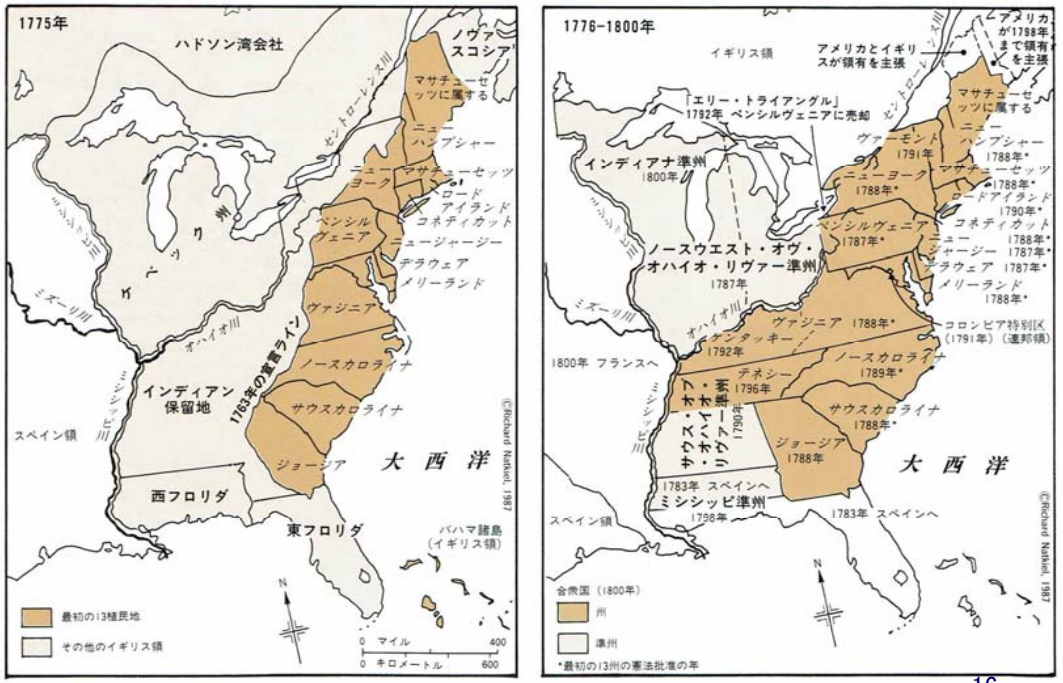
邦ごとに平等とするNJ案 ←→ 人口比例または拠出額比例とするVA案

下院＝人口比例，上院＝各邦対等

・議員数と税負担を州に配分する場合の奴隷の数の計算――自由人の3／5で計算

アメリカ独立戦争前後の経緯Ⅱ

1777年		連合規約大陸会議で可決(11.15)
1781年	Yorktownの戦いで植民地軍勝利(10)	連合規約成立(3.1)
1783年	パリ条約調印(9)	
1784年	大不況	
1786年	Shaysの反乱(8)；Annapolis会議の決議(9)	
1787年	連合会議が連合規約改訂のための会議を召集(2)	
	憲法制定会議(5.25～9.17) ；同会議合衆国憲法を可決(9.17)	
	The Federalist Papers (10～1788.8, by Alexander Hamilton, James Madison and John Jay under the pseudonym “Publius”)	
	合衆国憲法承認 States： Del. (12.7)； Pa. (12.12)； N.J. (12.18)	
1788年	Ga. (1.2)； Conn. (1.9)； Mass. (2.6)； Md. (4.28)； S.C. (5.23)； N.H. (6.21)――合衆国憲法成立，Va. (6.25)； N.Y. (7.26)；連邦議会議員の選挙(9～1790.8)	
1789年	Washington大統領に当選(2)，第１回連邦議会(3.4 但し定足数が揃うのは4月)；N.C. (11.21)； (R.I. (1790.5.29)； Vt. (1791.1.10))	



フェレル・ナトキール著／猿谷要監修『図説・アメリカ歴史地図』(原書房、1994、174頁)